

令和6年度 白川町総合計画審議会 会議録

1. 開催日時 令和6年11月29日(金) 午前10時00分 開会

2. 開催場所 白川町町民会館 大研修室

3. 出席委員

会 長	竹内 治彦君	副 会 長	藤井 宏之君
委 員	佐伯 好典君	委 員	榑間 博幸君
委 員	長尾 達美君	委 員	細江 辰男君
委 員	後藤 茂巳君	委 員	塩月 祥子君
委 員	今井 清美君	委 員	村上 欣子君
委 員	小栗 敏弘君	委 員	浅井 長可君
委 員	福田 喜美子君	委 員	鈴村 逸策君

4. 欠席委員

委 員	加藤 邦之君	委 員	山中 剛彦君
委 員	安江 万美子君		

5. 説明のために出席した者の職氏名

町 長	佐伯 正貴君	副 町 長	安 江 章君
総務課長	藤井 充宏君	庁舎整備室長	竹腰耕太郎君
企画課長	渡口 彰規君	町民課長	長尾 茂気君
保健福祉課長	長尾ひろみ君	農林課長	長尾 弘巳君
建設環境課長	中村 豊君	教育課長	大岩 裕樹君
会計室長	三ツ石克明君	議会事務局長	安江 宏行君

6. 職務のために出席した者の職氏名

企画係長 鈴村 元秀

7. 会議の経過

(1) 任命書の交付

企 画 課 長 任命書の交付について説明した。

(2) 開会

企 画 課 長 開会する旨を宣告した。(午前10時00分)

町 長 午前中のお忙しい時間にお集まりいただき、誠にありがとうございます。また、竹内先生には遠方からお越しいただき感謝申し上げます。竹内先生は現在、岐阜県の選挙管理委員会の委員長も務められており、大変お忙しい中でのご参加、ありがとうございます。さて、総合計画についてですが、2021年から2028年を期間として進めており、本年度でちょうど折り返し地点を迎えます。計画では2028年に人口6,400人を目標として掲げていますが、現状を鑑みると、2年ほど早くその水準に達する可能性があります。現在、町内の5地区で進めているまちづくり懇談会も佳境に入り、残

り1地区を残すのみとなりました。各地区でいただいたご意見を反映しつつ進めております。また、学校統合についても動き出しており、黒川中学校の統合などを含めた建設計画が進行中です。子どもたちの将来を見据え、少しでも良い教育環境を提供できるよう努めています。庁舎建設も順調に進行しており、次々回のお正月までに完成を目指しています。庁舎完成後には、さらに仕組みを見直しながら効率化を図りたいと考えております。総合計画の中では、人口や財政に関する目標を設定していますが、昨今の物価高騰や人件費上昇の影響で、財政状況は厳しくなる見通しです。そのため、引き続き厳しい状況を想定しつつ、適切な対応策を検討していきます。石破さんが地方支援について述べられたことにも期待を寄せています。また、ソフト面だけでなく、ライフラインを守るためのハード面の整備も重要です。特に道路や老朽化した水道設備の維持管理には、多くのコストが見込まれます。町民の皆様の生活基盤を支えるため、これらの課題にも真摯に取り組んでいく所存です。本日は検証委員会ということで、これまでの取組を振り返り、皆様からご意見を頂戴したいと考えております。後半に向けた改善につなげるため、忌憚のないご意見をよろしく願いいたします。

会 長 おはようございます。岐阜協立大学の竹内と申します。本日はお招きいただき、ありがとうございます。また、町長さんからお言葉をいただきましたので、少しお話をさせていただきます。私は岐阜県の選挙管理委員会の委員も務めており、先般の衆議院選挙では皆様のご協力に感謝申し上げます。白川町での投票率は非常に高く、岐阜県全体としても面目を保つ結果となりました。来年の知事選挙では投票率の低下が懸念されておりますので、引き続き、選挙への積極的な参加をお願いいたします。また、現在、人口問題研究会の座長も務めております。白川町の総合計画に初めて関わらせていただいたのは10年前の会議で、その後、10年間にわたり携わってまいりました。人口減少については、避けられない側面もありますが、対策を講じることでその進行を抑え、減少した中でも安心・安全で豊かな暮らしを守ることが大切です。こうした課題に対応するために、この総合計画は非常に重要な取り組みであり、皆様と議論を重ねながら、より良いものにしていければと考えております。私も微力ながらお力添えできれば幸いです。本日はよろしく願いいたします。

(協議事項)

会 長 協議事項として、(1)白川町まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価についてと、(2)白川町第6次総合計画の検証についてを一括議題とし、事

務局に説明を求めた。

事務局 今回の総合計画審議会では、総合計画と総合戦略の位置づけを再確認するため、説明をさせていただきます。総合計画は自治体行政としてのまちづくりのビジョンや目的、目標を定めた最上位計画です。一方、総合戦略はその計画を実現するため、重点的に取り組む具体的な施策や行程を示すものです。例えば、人口減少の克服や地方創生を主なテーマとしています。資料の2番目をご覧ください。今年度は第2期総合戦略の最終年度であり、その評価・検証を行うとともに、第3期策定に向けた方向性を検討いただく機会としたいと考えています。来年2月には再度審議会を開催し、ご意見を反映した内容を確認いただく予定です。資料5ページ、まち・ひと・しごとの創生人口ビジョンについて説明します。人口目標は2028年に6400人と設定していますが、2024年11月1日時点の実績値は6940人で、国勢調査との乖離が見られます。特に10代から20代後半にかけての若年層や子育て世代の減少が課題となっており、今後はUターン促進や地域定着のための魅力的な職場環境づくりが重要と考えています。次に資料8ページ、KPIの達成状況についてご説明します。総合戦略の柱は4つに分類され、多くの目標は基準値を上回りつつありますが、達成が困難なものも見られます。例えば、出生数の減少や観光客数の減少が顕著で、目標値との差が広がっています。これらについては引き続き政策の見直しが必要です。また、町内総生産やGAP/JASの団体数の伸び悩みなど、経済面でも課題が浮き彫りになっています。資料11ページでは、結婚支援の取り組みについて触れています。以前は結婚相談や婚活イベントを行っていましたが、時代の流れに合わせ現在はマッチングアプリを活用した支援へと移行しています。このように、時代に適応した施策の検討と、幅広い支援体制の構築が必要と考えています。さらに16ページ以降では、タウンプロモーションによる町の魅力向上について説明しています。SNSや広報ネットワークを活用し、町の魅力を広く発信する取り組みを進めていきます。最後に、KPIの達成状況を簡単にまとめます。順調なものについては引き続き効果的に進める一方、未達成の分野については、さらなる改善が求められます。皆様のご助言をいただき、施策を強化していきたいと考えています。なお、資料の事前送付に際し質問や意見等を受け付けておりましたが、締め切りまでには提出はありませんでしたので申し添えます。説明は以上です。

会長 事務局からの説明につきまして、ご質問やご意見ございましたらお願いいたします。

後藤委員 空き家の解消の数字というのは、空家だった物件が空き家ではなくなった数ですか。例えば、令和5年度でみると空き家解消が148という数字になっているが累計ですか。148の空き家が解消したという捉え方でよろしいでしょうか。

事務局 町全体の空き家の数を把握しております。その中で、空き家バンクに登録をして、誰かが住むようになったという解消+危険な空き家であるので、補助をして、取り壊したというような解消の二つを合算した数字が、評価実績として上がっております。

総合計画のKPI計算方法にありますように累計となっております。当初設定した際は、それまでに77件の空き家が解消されておりましたが、年々、解消の数字を積み上げながら現在はこの数字となっております8年後に160戸の空き家を解消するというような目標に今向かっているというところでございます。

後藤委員 町全体の空き家の数は、把握しているか。

企画課長 令和5年度にサポートセンターが実施した空き家調査によると、町内には614棟の空き家があり、そのうち利活用を目的とした空き家バンクへの登録件数は56件で、全体の約1割にとどまっています。移住希望者からは条件に合う物件が少ないとの声が多く、特に農地の近くに住みたいといった具体的なニーズに応える登録物件が不足している状況です。また、程度の良い物件ほど所有者が貸し出しをためらう傾向があり、一方で、状態が悪く放置された物件が登録されるケースが目立っています。

これらの課題に対し、町としては、程度の良い空き家を積極的に登録し、利活用を促進する取り組みを強化する方針です。登録物件の質を向上させることで、空き家バンクの活用を進め、移住希望者のニーズに応えるマッチングを実現していきたいと考えています。

後藤委員 空き家の登録不足による機会損失が年間で何人、あるいは何件に相当するのかは分かりませんが、移住を希望している人が希望する空き家が見つからずに諦めたというケースがどのくらいあるのか、という点についてお聞きしたいと思います。この問題を解消するためには、移住希望者のニーズを詳細に把握し、それを空き家登録の際に反映させる仕組みを構築するとともに、登録物件の質を向上させる施策を実施する必要があると考えています。

塩月委員 移住交流サポートセンターへの問い合わせ件数は増加しており、今年で年間約200件に達する見込みです。ただし、実際に利用登録をした方のみ空き家の案内を行っており、その数も増加傾向にあるものの、空き家

のマッチングには課題があります。登録されている空き家には、水回りの修繕が必要だったり、雨漏りがあるなど、程度の悪い物件も含まれており、それを実際に見た移住希望者が契約を決められないケースが多いのが現状です。

そのため、同じ方を複数回案内することもあり、業務量は増えていますが、マッチングが進まない状況が続いています。原因としては、空き家の状態が良くない点や、紹介できる空き家の数自体が少ない点が挙げられます。一方で、移住希望者の存在は一定数あり、案内自体は進められていますが、改善すべき課題が多く残されています。

後藤委員 マッチング数なかなか増えていかないという状況で、空き家バンクに登録してくれる可能性のある家は町内にありますか。

塩月委員 昨年度の調査によると、空き家の数自体は多いものの、その中で実際に住める状態の空き家は非常に少ないのが現状です。特に、修繕なしでそのまま住める空き家はほとんどなく、案内時には「修繕が必要です」と説明しなければならない状況が続いています。また、登録されている空き家の中にも程度が悪いものが多く、修繕の必要性が高い物件が目立っています。

さらに、登録されていない空き家についても、良好な状態の物件はほとんど見られず、黒川地区では「登録されれば良い物件」が1~2件程度しかないのが実情です。このように、状態の良い空き家は非常に少なく、現状では十分な利活用が進んでいない状況です。

会長 皆さんが住んでいる環境はそれぞれ異なりますが、一般的に住宅というのは使われなくなると急速に劣化します。この点について、量の問題だけではなく質も問われるべきだと思います。特に空き家問題に関して、現在のKPIが実態を十分に捉えられているのか疑問が残ります。単に空き家の解消件数だけを目標にするのではなく、全体の状況を踏まえた視点が必要ではないでしょうか。

また、空き家といっても状態はさまざまで、簡単に修繕可能なものもあれば、多額の費用がかかるものもあります。このような背景を考慮し、移住促進を進めるためには、適切な措置が求められます。例えば、住居の簡易修繕を希望する人材を募ることで、低コストでの対応が可能になるかもしれません。しかし、水回りや下水道など見えない部分の修繕には専門的な対応が必要であり、その費用負担の問題もあります。

さらに、空き家の管理においては、自治体と個人の役割分担が曖昧であるため、管理の仕組みを整備する必要があると感じます。特に自治会では、「誰も住んでいない家の雑草を勝手に刈って良いのか」といった声もあり、

こうした課題に対応するための具体的な制度設計が求められるのではないのでしょうか。

副 会 長 塩月委員が発表された内容に関連してお話しします。私は黒川地区で活動しており、空き家の解消だけでなく、これからは空き家をなるべく出さない取り組みが重要だと考えています。

黒川では地区ごとに担当者を配置し、情報を集めるよう努めています。空き家の状況は日々変化しますが、地元の住民であれば家の状態や家族構成を把握しており、どこに連絡すれば良いのかといった対応が可能です。そのため、空き家になる前に、状態が良いうちに対応を検討することが重要だと感じています。

しかし、こうした取り組みを進める中で、なかなか思うように進まないのが実情です。それでも、情報を常に収集し、次の空き家を生まないように努力を続けることが大切ではないかと考えています。

細 江 委 員 前回、佐見で学校建設の話があった際に、素晴らしい学校ができるので何とか多くの子どもたちに通ってもらいたいと提案しました。その際、教育長から移住者の受け入れについての意見がありました。佐見から見ると、三川や大和地区は非常に良い環境であり、そこに住む人々にとっても魅力的な場所かもしれません。

しかし、白川町で家を建て、そこに住みたいと考える方々が多い中で、町の集落に新しい住民を迎え入れるだけでなく、既存の住民が町を離れることを減らす政策も必要ではないでしょうか。例えば、川辺で一軒家を建てると約3000万円かかるところを、白川ならその半額で建てられるような支援を行い、住民が白川町から出ていかないようにする。さらに、白川町で子どもを育てる魅力を訴え、今回建設される素晴らしい学校を活かして「白川町で教育を受ける価値」を広める施策が求められると思います。

教 育 長 教育面でも、この前佐見で細江さんからいただいた意見を受けて、新しい校舎の建設に伴い教育内容を見直し、その良さを広く伝えていく必要があります。口コミや実際に体験した方々の声を活かし、「白川町は子育てに適した町だ」と認識されるよう、少しずつその魅力を広めていくことが重要だと考えています。

佐見についてですが、中学校がなくなり小学校だけになっています。確かに子どもの数は少ないのですが、佐見から転出している子どもはほとんどいません。ただし、出生数が少ないために、徐々に子どもの数が減っているという状況です。

佐見の学校については、新しい校舎に移転しており、先生方や地域の皆

さんの協力も大きく、現在の佐見の子どもたちは少人数ながらも元気に勉強や活動に励んでいます。こうした現状を踏まえ、佐見を含む白川町の教育の良さを広く知っていただきたいと考えています。

副町長 移住者の方や町内にお住まいの方が空き家を活用される場合、購入や改修、賃貸に対する補助制度を設けています。また、新しい取り組みとして、町有地の活用を進める計画があります。

現在、坂の東と赤河にある町有地について、無償で貸し出す制度を始めています。この制度では、一定期間その土地に住み、その後、自ら家を建てる場合に土地を無償で譲渡することを考えています。この新しい事業を展開することで、町の活性化につなげていければと考えています。

塩月委員 空き家政策についてですが、現状では移住者を増やす取り組みとして限界を感じています。農園付きコテージも移住交流サポートセンターで管理されていますが、ほぼ満室の状態が続いています。このように需要が高い一方で、空き家や農園付きコテージだけでは対応しきれず、さらなる対策が必要だと考えています。

現在、町営住宅についても教育委員会と連携を模索しており、話し合いを進めています。ただし、不足しているのは新築住宅です。副町長からもお話がありましたが、土地の提供や新しい政策を導入することで、住宅供給を増やし、移住者や定住者をさらに呼び込めるのではないかと思います。需要は確実にあるため、新築住宅や住まいの提供を強化する体制を整えることが重要だと感じています。

町長 黒川についてですが、これまで小学校横にあった教員住宅は、学校の先生専用として区分けされており、一般の方は借りることができませんでした。しかし、現在は教員住宅を町営住宅化し、一般の方も住めるようにしています。

最近の傾向として、世帯向け住宅の需要が減り、どちらかというと単身者や企業関係者からの需要が増えています。特に、介護施設で働く方や外国人の方が町外から来られるケースが多く、アパートのような短期で住める住居が不足しているのが現状です。そのため、こうしたニーズに対応する住宅を検討する必要があると感じています。

もちろん、子どもを連れた世帯が移住されるのが理想ですが、集合住宅のような形態の住居でも需要があるなら、それも選択肢として考えるべきだと思います。以前に、移住希望者が必ずしも一戸建てを求めるわけではなく、アパートのような住宅でも活動が可能ならば移住したいという声を聞いたことがあります。そのため、すべての移住者が一戸建てを求めている

るわけではない点も考慮する必要があるでしょう。

まずは、既存の資源を活用することが重要だと考えています。教員住宅や町有地など、現在ある資源を活用しながら、必要に応じて新たな政策を進めていきたいと思っています。

会 長 他にいかがでしょうか。

浅井委員 移住の話から少し外れてしまいますが、清流会理事長の浅井です。17ページについてお話しします。ここには障害者福祉の充実に関する施策が書かれていて、就労A型や就労B型の新規利用者数の目標値が記載されています。しかし、これらはあくまで目標値であって、これだけで福祉が充実しているとは言えません。就労B型の利用者数が増えたからといって、必ずしも福祉が充実しているとは限らないということを皆さんに伝えておきたいと思います。目標に達しても、最終的な目標は障害者が一般企業で働き、地域で自立した生活を送ることです。この点について、目標値やKPIだけでは測れない部分があることを理解してほしいと思います。例えば、犯罪発生件数の目標が10人以下というのは分かりやすいですが、福祉分野で数値化できる指標は必ずしも簡単ではないことをお伝えしたいです。

会 長 犯罪件数、特に窃盗が100件というのはどういう状況なのか、少し詳しく聞きたいですね。就労支援の施設に関する意見はいただきましたが、犯罪件数についてはどうなっているのでしょうか？

総務課長 黒川地区で消火栓のノズルの盗難が非常に多く、警察に届け出た結果、1件ずつ数えられたため、最終的に100件以上になったということです。実際には、まとめると約30件程度に落ち着くことになるという状況です。

会 長 交通死亡事故の件数がゼロという目標に関して、大垣市での会議では目標が3件くらいだったのに対し、警察はゼロにはできないと言っていました。私は死亡事故ゼロを目標にするのは良いことだと思いますが、警察が認めない状況もあることを考慮しながら進めるべきですね。

福田委員 ボランティア活動について、記載されている数字については、アンケート結果が反映されたものだと思いますが、実際、白川町ではコロナ前から地域で助け合いの精神が根強いです。隣人同士が送迎をしたり、電球を交換したりすることが日常的に行われていて、それがボランティア活動として認識されていないこともあります。アンケートだけでは数字を出すのが難しいと感じています。実際には、ボランティア意識は高く、助け合いの精神も強いので、その実態を反映するのは難しいと思います。目標に達しないという結果が出ることも考えられますが、その理由を理解してほしい

です。また、幸せを感じることや集まりの場についても、そこには小規模な活動が多く、数字として表すのは難しいです。

会 長 福田委員の意見は、実際の活動とアンケート結果の間にギャップがあるということですね。KPIとして数値化する際には、現場の実情を反映させる必要があります。ボランティア活動も、単なる数値だけでは測れない部分が多いため、その点を考慮し、どうやって実績を反映させるか工夫が必要だと思います。

榑間委員 農地の集積率について、各地区で農業法人化を進めていますが、経営が厳しい状況です。現在、地域計画の策定準備を進めており、10年後の農地について考え、支援が必要な地域には働きかける必要があると感じています。法人化や組織化の支援、特に事務的な支援が有効だと思っています。地域の農家は待ちの状態であり、何かきっかけが必要です。

農林課長 地域計画については今年度から取り組んでおり、今後10年を見据えて誰がどのように農地を守るか話し合いを進めています。地域によって取り組み方に温度差があり、黒川地区では営農組合がしっかりしており、有機農家の方々が担い手となっていますが、まだ農地が不足しています。他の地区では、個人で営農しているところが多く、地域全体で農地を守る形がまだ整っていないのが現状です。地域ごとに進展が異なり、今後は組織化や法人化に向けた支援を町全体で進めていく必要があります。今年はスタートアップの年として、毎年話し合いを重ねていきたいと思っています。

小栗委員 白川町の生産基盤を守るために、6ページに記載された収益性の高い作物についてお尋ねします。町では、どのような作物を収益性の高いものとして考えているのか教えてください。

農林課長 現在、白川茶の低迷が続いており、農地が荒れている状況です。お茶のブランド化を進めるとともに、代替作物を検討しています。例えば、ヘーゼルナッツは手間がかからず、収益性も高いと聞いており、視察も行っていきます。また、コナラを使ってシイタケの原木を作るなど、農地を山林に転換する方法も考えています。新年度からは、特産品振興センターを立ち上げ、これらの転換作物を含めた取り組みを進めていく予定です。まだ具体的な作物については研究段階ですが、地域の特性を活かした発展を目指しています。

会 長 他に質問はございませんか。

後藤委員 消防団員の定数についてですが、白川町では定員400人の達成度が難しい状況です。特に広域災害時に備えたマンパワーが必要です。もし広域災害が発生した場合、白川町が復興で最も後回しになるのではないかと懸念

しています。その中で、白川町と自衛隊の関係について、噂で自衛隊がいざという時に駆けつけてくれるという話を聞きました。もしそういった提携があるなら、その点をPRして、住民の安心感を高めるべきだと思います。自衛隊の訓練場所として白川町が利用されている点も強調して、地域の防災力を高めるためにどう活用するかを考えた方が良いのではないのでしょうか。

町長 自衛隊はレンジャー訓練を60年以上続けており、毎年本町で訓練を行っています。地域の住民の皆さんも、自衛隊に対する特に反対の声はなく、訓練を受け入れています。自衛隊が駆けつけるケースについてですが、有事の際、東海地区全体が影響を受けた場合、名古屋市など大都市を放置して本町に来ることは難しいかもしれません。とはいえ、数年前、河岐地区で大雨の際に自衛隊の先遣隊が事前に来てくれたことがあります。こうした地域とのつながりがあるからこそ、災害時に助けてもらえることを実感しています。自衛隊のPRについては難しいかもしれませんが、地震に対する白川町の安全性をPRしていくべきだという意見もあります。とはいえ、証明できるものが少なく、実際に災害が発生した際にどれだけ守れるかは未知数だと思います。自衛隊以外にも、町の災害対策をPRしていきたいと思っています。

消防団の定数についてですが、昔から400人の定数を維持しており、人口減少の中でも団員確保に努めてきました。最近では、町内に住んでいない団員が増え、状況は厳しくなっています。しかし、災害時の初動で必要なのはやはり消防団の数です。特に災害時の対応が重要で、消防団員には負担を軽減するようにお願いしています。自衛隊がしっかりと支援してくれると思っていますが、消防団の改革も進めていく必要があります。

佐伯委員 町のあるべき姿の方向性を決めるものが第6次総合計画と認識しています。これまで意見があったように、このKPIの設定が必ずしも施策の達成度を示しているかは疑問が残るものもあります。計画書や資料の作成についても工夫をして、それぞれの委員が適切な助言が行える審議会にしたい。行政でしか取れない情報やデータがあると思われるので積極的に公開や活用をしながら、エビデンスに基づいた政策形成を行っていただきたい。

企画課長 第2期総合戦略の評価分析を行い、次の第3期戦略を作成する作業が進んでいます。評価が難しい部分もあり、反省を踏まえて、わかりやすく具体的な方向性を示すようにしていきます。上位計画として、町と人と仕事の創生に関する部分を強調した総合戦略を作成し、皆さんにわかりやすく

説明できるように進めていきます。

会 長 　　今回は第2期の評価分析が中心ですが、タイミングとしては少し遅いと
感じています。2月の会議で素案が出て議論される段階になっており、議
会との調整も進めていく必要があります。KPIについてはすでに決まっ
ている部分もあり、反省点があれば改善していくべきです。これからは町民
目線で意見をいただき、議論を深めていきたいと考えています。各分野か
らの意見が重要ですので、皆さんの積極的な参加をお願いしたいと思いま
す。

事 務 局 　　総合戦略の評価と第3期戦略の意見をいただくための場を設けました。
今後、スピード感を持って進めていきますので、皆さんからの意見もいた
だければと思います。第3期総合戦略は、短期間で効果的な取り組みを進
める内容にしていく予定です。2月にはまた資料をお見せできるようにし、
皆さんと共に作り上げていきたいと考えています。

会 長 　　事前に調整が必要な部分もありますが、早めに書面ベースで意見交換が
できるとより良い議論ができると思います。また、デジタル田園都市国家
推進の補助金に関する検証など、タイミングに合わせた資料も出していた
だければと思います。

会 長 　　他に質問はございませんか。

冒頭、空き家の話を伺い、大垣市中心部に壊れかけた空き家が存在して
いる状況や、約7年前に実際に空き家が倒壊し全国ニュースとなりました。
空き家は街中に普通に存在しており、自治体によっては集落全体が空き家
で、居住者が2軒程度というケースもあるとのこと。これらの状況を
踏まえ、町の取り組みに対して「すごい」と感じました。

また、関ヶ原町では新規就農が難しいです。同地域は積雪があり、ハウ
ス栽培が維持できず、新規就農者にとってのハードルが高い状況です。土
地自体は安価ですが、造成が必要なことや住宅建設費の高騰も課題です。
このように、地域によって様々な制約がありますが、それぞれの条件に応
じた取り組みが必要だと考えます。

白川町については、移住支援において働く環境や住宅環境の整備が大き
な課題であり、特に職場の確保が重要です。子供が通学できる環境や移住
者が働きやすい条件を整えることが、移住促進の鍵となります。また、国
の政策を踏まえた6次産業化や観光と農業を絡めた取り組みに可能性があ
ると感じます。

さらに、白川町が岐阜県内で人口減少ワーストとされる現状についても
触れ、町単独の視点ではなく加茂郡全体の動きや指標を視野に入れるべき

だと考えます。移住者の多くが県外へ移動する中で、地元での職住近接をいかに実現するかが重要です。そのためには産業戦略を中長期的に計画し、製造業が難しい場合でも農業や林業の可能性を模索すべきと提案します。

最後に、子育て支援の難しさについて子供の数が減少しているため、抽象的な施策ではなく具体的な支援が求められる状況で、行政として対応が難しい点を指摘します。それでも、地域組織がしっかりしている点を評価し、今後も努力を続けることで「人口は減ったけれども安心して豊かに暮らせる地域」を目指してほしいです。

以上を踏まえ、次回の資料準備を早めに進めていただくことをお願いし、議事を終了としました。進行にご協力いただき、ありがとうございました。

企画課長 本日は貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。我々もこれらをしっかり受け止め、計画改定を進めてまいります。本日本日予定しておりました協議事項はすべて終了いたしました。熱心にご審議いただき、誠にありがとうございました。それでは、閉会にあたり、藤井副会長よりご挨拶をお願いいたします。

副会長 本日は、1時間半にわたる討議にご参加いただき、誠にありがとうございました。また、竹内会長にはご多忙の中、貴重なアドバイスをいただき、重ねて感謝申し上げます。

会長からもお話がありましたように、私たちはこの地に生まれ育ち、今後ここで末永く暮らしていきたいと願っております。そのためにも、総合計画・総合戦略について、皆様と話し合えたことは大変意義深いと感じております。第3期に向けた審議会では、執行部の皆様にご負担をおかけした部分もあるかと思いますが、これからの白川町の未来を共に築いていきたいと願っています。本日はご多忙の中、午前中の時間を割いてご参加いただき、誠にありがとうございました。これをもちまして閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

(終了 11:45)